要介護状態になるリスク（一般高齢者と要支援認定者）

■　国の「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の手引き等を踏まえ、要介護状態になる各リスクについて以下のように整理する。

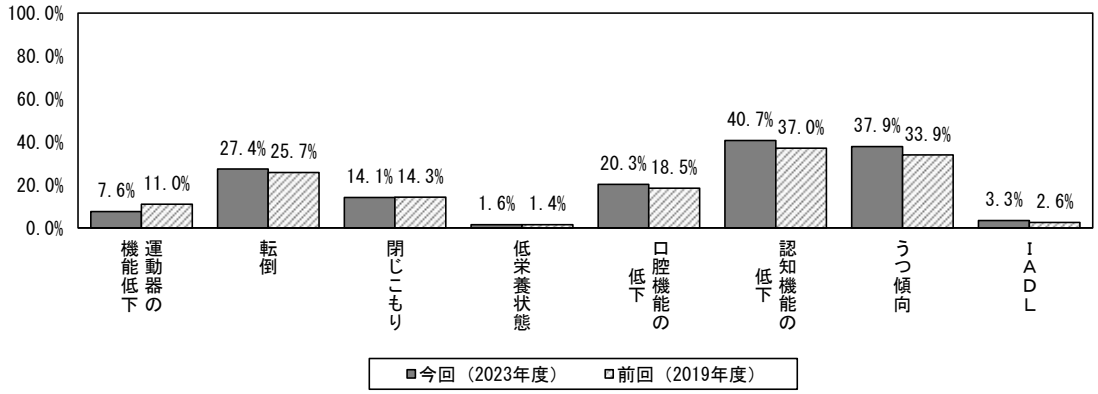
リスク等	一般高齢者	要支援認定者
運動器の機能低下	問 6-(1) ～(5) の５項目のうち３項目以上で該当する選択肢を回答した場合	問 6-(1) ～(5) の５項目のうち３項目以上で該当する選択肢を回答した場合
転倒	問 6-(4) で該当する選択肢を回答した場合	問 6-(4) で該当する選択肢を回答した場合
閉じこもり	問 6-(6) で該当する選択肢を回答した場合	問 6-(6) で該当する選択肢を回答した場合
低栄養	問 7-(1) でＢＭＩが 18.5 以下で、問 7-(9) に該当する場合	問 7-(1) でＢＭＩが 18.5 以下で、問 7-(9) に該当する場合
口腔機能	問 7-(2) ～(4) の３項目のうち２項目以上に該当する場合	問 7-(2) ～(4) の３項目のうち２項目以上に該当する場合
認知機能の低下	問 8-(1) に該当する場合	問 8-(1) に該当する場合
うつ傾向	問 22-(1) ～(2) の２項目のうち１項目でも該当する場合	問 22-(1) ～(2) の２項目のうち１項目でも該当する場合
ＩＡＤＬ※	問 8-(5) ～(9) の５項目で「できるし、している」または「できるけどしていない」を１点とし、合計値が３点以下であればリスク有り	問 8-(5) ～(9) の５項目で「できるし、している」または「できるけどしていない」を１点とし、合計値が３点以下であればリスク有り

※買物、洗濯、電話、薬の管理など活動的な日常生活を送るための動作のことを、「手段的日常生活動作（Instrument Activity of Daily Living：ＩＡＤＬ）」といい、その自立度から、高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる。

■　一般高齢者の要介護状態になるリスクの状況をみると、「認知機能の低下」が 40.7%で最も多く、次いで「うつ傾向」(37.9%)、「転倒」(27.4%) となっています。

前回と比べると上位３項目と「口腔機能の低下」はいずれも前回より増加しており、「認知症機能の低下」は 3.7 ポイント、「うつ傾向」は 4.0 ポイント多くなっています。

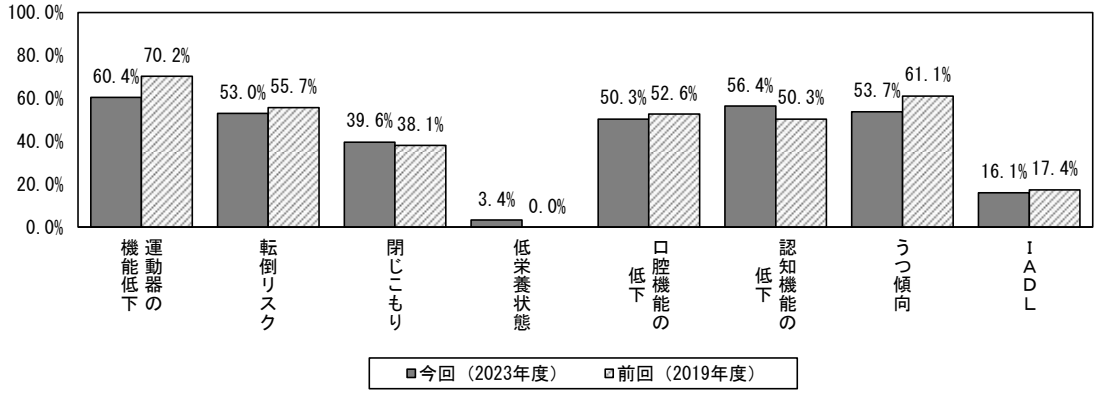
【一般高齢者で要介護状態になるリスクがある人の割合】

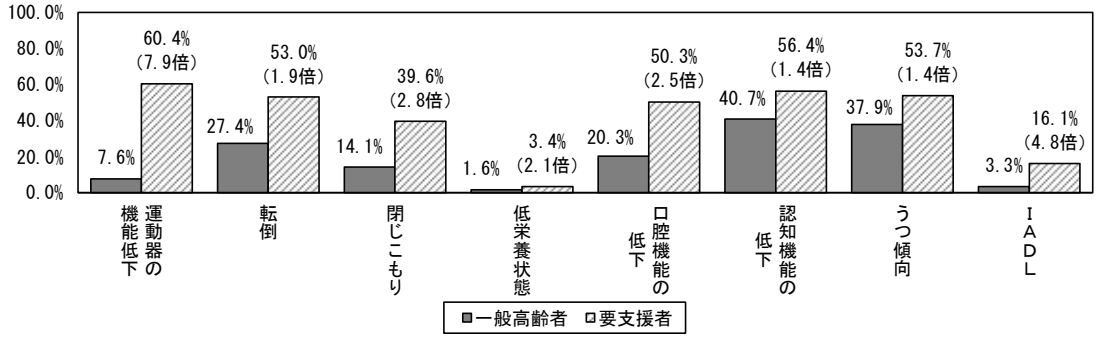


■　要支援認定者の要介護状態になるリスクの状況をみると、「運動器の機能低下」が 60.4%で最も多く、次いで「認知機能の低下」(56.4%)、「うつ傾向」(53.7%) となっています。

前回と比べると「閉じこもり」、「低栄養状態」、「認知機能の低下」を除く各項目で減少がみられ、「運動器の機能低下」は 9.8 ポイント、「うつ傾向」は 7.4 ポイント少なくなっています。一方、「認知機能の低下」は 6.1 ポイント多くなっています。

【要支援認定者で要介護状態になるリスクがある人の割合】



■　一般高齢者に比べて要支援認定者では、「運動器の機能低下」リスクのある人が 7.9 倍、「ＩＡＤＬ」リスクのある人が 4.8 倍、それ以外の項目では２～３倍程度となっています。

【一般高齢者と要支援認定者で各種リスクがある人の割合の比較】